

カロライナブルーの空の下で（生活編）

アメリカ ローリー補習授業校 坂田 哲朗

（シニア派遣）

1 衣

アメリカのほとんどがそうであると思われるが、家がセントラルヒーティング、セントラルクーリングであるため、室外のクーラー（電気）、ヒーター（ガス）の自動調整により、家の中も事務所も借用校も快適な温度に設定されている。アメリカが車社会のため、夏の暑さ、冬の寒さも駐車場から建物までのわずかな時間を我慢すれば快適な空調の中にあるため、衣服は春秋の服装で良いことになります。



2つの室外機

一般的な服は、ショッピングセンター等で売っており中国製が多い。

2 食

住宅地に隣接して、ローズ、ハリスティータ、パブリックス、フードライオン、ホールフーズ、ウエッグマンなどのスーパーマーケットがあり、食材はほとんどそこで調達できます。日本の食材は車で10分位のところに韓国系の食料品店がありそこでだいたいの物は揃います。薄切りの肉や鮮魚、おいしいパンなどは、車で30分位の韓国系や中国系のスーパーに行くとありますがいつも混み合っています。因みに消費税は、7.25%です。

ここで気になるのが、野菜や果物、牛乳、ヨーグルトなどだいたいの物がなかなか傷まなかつたり、賞味期限がかなり長かつたりすることです。おそらく長持ちする何か秘密があるのではと思っています。

3 住

家は全体的に大きく、大豪邸、一般的な家、アパートメント、小さな家に分かれているが、フェンスは木材でできているのがほとんどであり、壁は木製ではないが自然と調和している物が多い。一つの住宅地に形は違うものの、色、材質の似通った家が並ぶため一体感がある。車社会であるため、一般的な家でも1階部分にシャッター付の2台分の駐車場を有し、外にも2台分の駐車場がある場合が多い。



一般的な家

こちらの方々の家に関する意識が日本と違うところは、自分が建てた家にずっと住み続けるのではなくて、住み替えを頻繁に行う人が多いということです。例えば、新婚で夫婦二人の場合は小さな家やアパートメントに住み、子どもが増え成長するとベッドルームが5つもある大きな家、子どもが独立すると貯蓄は多くあっても広い家は必要ないので小さな家やアパートメントに移り、旅行などにお金を使い生活を充実させるといった感じで

す。子育ての途中で、子どもの通学やその他の理由での転居も珍しくありません。基本的に高校や地元の大学を卒業した場合は家から出されるので引きこもりはほとんどないということもあり、夫婦が自分たちの生活設計を立てやすい、転居が頻繁に行われるので自分の家がすぐに売れるという状況もこれを後押ししているのかもしれませんが。

それから、こちらでは年齢、性別などはあまり関係なく、今何ができるのかが就職のポイントとなり、定年も各自が決めるのが一般的であるので、50歳でも一生遊んで暮らせるだけ稼いだ人は、そこで定年して楽しみながら余生を過ごすということもあり、相手に年齢を聞いてはいけないという風潮があります。

家の基礎は日本ほどしっかりしていなくて、どちらかというと自重でもっているといった感じです。また、トレーラーホームというのもあり、それらはトレーラーパークという地域にしか設置できないが、高速道路で大型のトレーラーに乗せて運んでいることがあり、私たちは車線をはみ出している家を避けながら走ることもあります。

森林と隣接している住宅群や緑が多く残された高級住宅街などが多いため、火事になると燃えやすいとも言えます。大きな雷が落ちたときには、火災の危険性があるので忙しく動き回る消防車のけたたましいサイレンの音を聞くことがあります。

住宅地は山に向かってこちらでは西へ西へと広がっています。森林が伐採され新しい住宅地が開発されるとその周りにショッピングモールが併設されるということで、新たな住宅地群が形成されます。その場所は、ぽつんと山の中というより今までの住宅地に隣接した延長といった感じです。

4 車社会

交差点などで車が止まったときに、周りを見渡すと7～8割は日本車です。隣や知人のアメリカ人もほとんどが日本車に乗っています。理由は皆さん同じです。燃費が良いのはもちろんなのですが、故障がない、途中で止まらないからなのだそうです。途中で止まらないというのは当たり前だと思うのですが、長距離を走ると路肩に故障して止まっている車に出くわします。夏休みにアトランタまで約800kmを8時間くらいかけて行って来ましたが途中で20台近くそれに遭遇しました。その中に日本車はほとんどありませんでした。日本車の耐久性は有名です。そして日本と違うところは、車社会であるために、中古でどんなに古くなくても需要があり売れるということです。これまた、街中で元の塗装がはげててかたかたになった車を見かけます。このような車は日本ではなかなか走っていませんがこちらでは車がないと生活ができませんので結構走っています。もちろん古くても走っているのは日本車です。

高速道路は勿論無料で、多くの車が走っていますが、一般道とともに全体的に運転は荒くウイーカーを出す人が少ないので、交通事故は日本にいたときよりも頻繁に目にします。しかし、信号機のない交



アパートメント



スクールバスとパトカー

差点では、先に交差点に入った方が優先というのが徹底されていて、それを忠実に守っています。スクールバスの乗降時には両車線の車は停車という交通規則以外に、全体として歩行者、自転車にはやさしい運転でジョギング中に交差点近くにさしかかると手で合図をして歩行者を先に渡らせてくれます。

産油国という事もあり、大量に使用することもあり、ガソリンは1リットルあたり約70円と安価となっています。

5 健康

車社会ということで、歩く機会がないために運動不足となりがちです。そこで私の住んでいるところは、治安が良いこともあり、ジョギングや犬の散歩をする人が朝夕多く見られます。そのほかスポーツジムが多くあり、サウナやプールはありませんが、私が入会しているところは、月\$10で使い放題で、なおかつ24時間営業で、朝小一時間運動してから出勤という人が多いです。スポーツジムの中には、月\$5というところもあります。

近所に州立の自然トレイルがあり、その広さは、隣接するローリー・ダーラム国際空港のざっと見て2倍以上あります。そこには、案内センターがあり、2~3kmから20~30kmまでの大小さまざまなトレイルコースがあり、人々は歩いたり、走ったり、自転車に乗ったりと思いつきの方法で自然と触れ合っており、いつ行っても多くの利用者でいっぱいです。



森林公園内のトレイル

6 福祉

障害のある方は、学校を卒業した後も何歳になっても、20時間/週、送迎があり、介助者をつけてスポーツや習い事、イベント等に参加することができ、多くの人を利用するなど福祉は充実しています。

高齢の方が多く住む高級な住宅地があり、その中心部には室内だけではなく、屋外でテニスや水泳を楽しむ姿があります。知人に誘われて平均年齢70歳位の女性によるシンクロナイズドスイミングの内輪の発表会に行ってきましたが、家族、知人等の観客が約400~500人いて、手書きの採点表を出して、やんややんやの大喝采をあげていました。



シンクロナイズドスイミング

7 公共施設、公共サービスなど

全体的に公共施設が充実していてしかも入場料が無料です。近くにノースカロライナ美術館があります。結構世界的に有名な絵画や彫塑があり、2つの図書館と屋外に展示されていますが、無料です。本物の絵画がケースにも入らずに展示されていて近くで見ることができます。安全管理は大丈夫かと思うことがありますが、監視員が多くいて頻繁に動き回って各セクションを見守っています。じっくり回ろうと思うと一日かかります。大人同

士でじっくり立ち止まりながら、小声で話しながら回っている場合と保護者らしき人が子どもを連れて回っている場合があります。何回もきているせいか子どもたちのマナーもよく、絵画の構図や色遣いを学ぶことが出来ています。

先日、隣人にサンクスギビングのパーティーに呼ばれて行ったのですが、テーブルに紙のテーブルクロスが敷いてあり、待っている子どもや飽きてしまった人が時間をつぶせるように塗り絵になっていて、子どもたちが塗っていたのですが、その色遣いのカラフルさに驚きました。教育の中の自由度とともに多くの本物に触れる体験があるためかなと思った次第です。



テーブルクロスの塗り絵

外にある彫塑などを見ながら自然豊かな散歩道をゆっくり歩いている家族連れを多く見かけます。

私の住んでいるローリーには、図書館が23か所あり、それぞれの地域にあるのですが、本が充実していて、絵本等も同じ本が5~6冊あり、人気のある本でも待たずに借りることができます。



そのほか幼児対象の親子参加の活動教室への参加が多く、これに父親が子供を連れてきている割合が日本よりも多いと感じました。また、犬に子どもが本を読んであげるといった企画もされており、子どもたちが一生懸命読んでいる姿が印象的でした。図書館に隣接して公園があり、本に飽きたら公園で遊ぶまたは、この2か所を行き来する親子もよく見かけています。

複数の絵本

ゴミ捨ては週1回で、可燃物とリサイクルに分けて出します。クリスマスに使ったもみの木もそのまま置いていたら回収されます。大型や燃えない物は、投棄場所にもっていくと処分してくれます。いずれも無料です。



ゴミ収集車

郵便は、近くのガソリンスタンドに併設された簡易郵便局で出すことができますが、家の郵便箱に入れておくと配達時（原則として月~金曜）に回収してしてくれます。



青空

公共サービスが整っており、皆さんゆったりと生活をしており余裕をもって日々を過ごしているという印象を受けました。



郵便集配車

このような環境にいと様々なことがあったとしてもカロライナブルーの青空を見上げると晴れ晴れとした気持ちになります。